

新博物館の活動と運営 Vol.1

**～ともに考え、活動し、成長する博物館に向けて～
(最終報告)**

平成 22 年 3 月

**三重県生活・文化部
新博物館整備推進室**

昭和28年、東海地域で初の総合博物館として開館した三重県立博物館は、老朽化が進み、展示室を閉鎖するなど、博物館としての機能が果たせない状況になっています。

このような状況のもとで、新たな「文化と知的探求の拠点」として、三重の文化振興と、地域の文化力の向上に役立つような新県立博物館を整備するための検討に入りました。平成19年7月から「新県立博物館基本構想(平成20年3月)」、「新県立博物館基本計画(平成20年12月)」、「新県立博物館 事業実施方針(平成21年3月)」をまとめ、平成21年度には、設計業務に入り、いよいよ理念を具体的に実現する段階に至りました。

新県立博物館は、「ともに考え、活動し、成長する博物館」をめざしています。博物館の主役は、県民・利用者の皆さんです。この考え方を、博物館をつくる段階から実践していくため、現県立博物館で取り組んできた活動を発展的に新博物館に向けた活動に集約しつつ、新たな検討や試行を加えて、県民・利用者の皆さんとともに取り組んでいきたいと考えています。

そこで、これから開館までの約5年の間に、新博物館を具体的に構築していく過程を、「新博物館の活動と運営」として毎年まとめていくこととしました。

「新博物館の活動と運営」は、新博物館の活動と運営の構築のために行っているさまざまな検討や取組を、県民・利用者の皆さんに報告し、知っていただく機会とするとともに、一緒に考えていただくために、活用していきます。これから毎年 Vol.1(第1巻)～Vol.5(第5巻)まで、新博物館整備に向けた取組をまとめ、開館時には、整備過程で歩んできた道を記録として共有できるように積み重ねていきたいと考えています。そして、この経験を開館後のみんなで作る博物館の基本的なしくみとして発展させることができるようにしっかりと取り組んでいきます。

ぜひ、一人でも多くの方がご覧になり、新博物館をつくっていく過程に参加・参画していただくことにつながれば幸いです。

平成22年3月

三重県生活・文化部 新博物館整備推進室

目 次

| | ページ |
|--------------------------------------|-----|
| 序章 新県立博物館の理念と使命 | 1 |
| 第1章 2009（平成21）年度の取組 | 2 |
| ■事業実施方針の基本的な考え方 | |
| 1 事業の目標 | |
| 2 取組方針 | |
| 3 重点的取組テーマ | |
| ■テーマ別の取組 | |
| 1 各取組の位置づけ | |
| 2 実施状況 | |
| 3 詳細報告 ～県民の皆さんへの説明と意見集約の取組～ | |
| 第2章 2009（平成21）年度の検討内容から | 26 |
| ■「ともに考え、活動し、成長する博物館」をめざした建築・展示設計の考え方 | |
| 1 県民・利用者の皆さんの博物館活動を想定した設計検討 | |
| 2 エリア別の考え方 | |
| ■公文書館機能整備の考え方 | |
| 1 公文書館とは～公文書館の機能について～ | |
| 2 新博物館における公文書館機能の一体化の考え方 | |
| ■運営 | |
| 1 2009(平成21)年度の検討 | |
| 2 2010(平成22)年度以降の検討の進め方 | |
| ■連携を進めるための主体別ヒアリング等調査の結果 | |
| 1 主体別ヒアリング・学校等へのアンケートの実施状況 | |
| 2 実施結果からみた今後の取組方向 | |
| 第3章 2010（平成22）年度に向けて | 41 |
| 1 2010（平成22）年度の位置づけ | |
| 2 2010（平成22）年度の取組のポイント | |
| 3 取組テーマ別の実施内容 | |

序章 新県立博物館の理念と使命

新県立博物館の使命

三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承し、次代へ生かす博物館

●めざす効果
資料の散逸・滅失等の抑止
自然環境保全への貢献
地域文化等の継承への貢献

学びと交流を通じて人づくりに貢献する博物館

●めざす効果
県民の生涯学習への貢献
学校と連携した次世代育成への貢献
地域の諸団体の成長・発展への貢献
人と人、地域と地域の交流の活性化への貢献

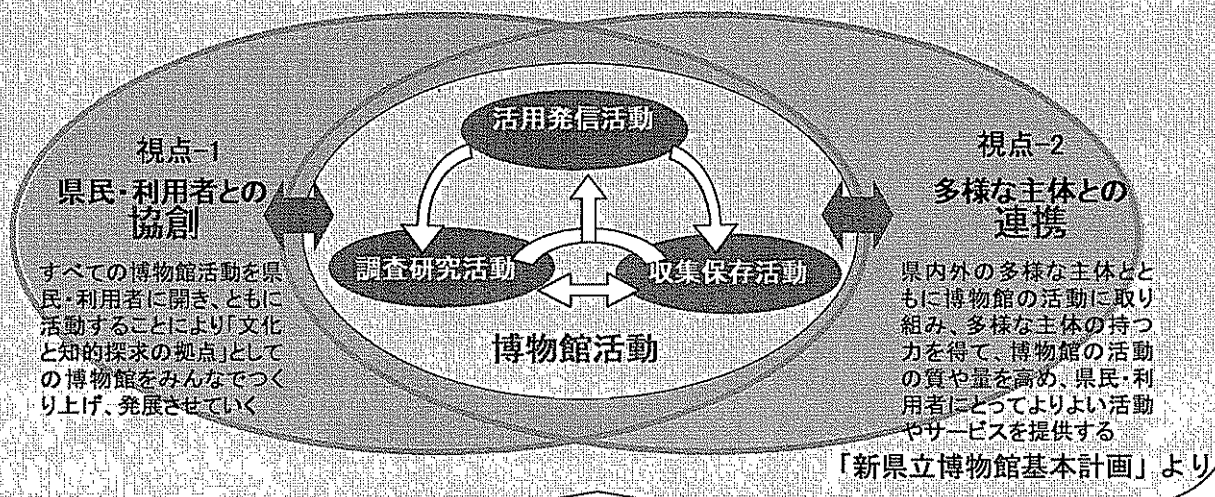
地域への愛着と誇りを育み、地域づくりに貢献する博物館

●めざす効果
地域や三重への愛着や誇りの醸成
地域づくりや地域課題の解決への貢献
三重の魅力発信への貢献

博物館活動の展開

「ともに考え、活動し、成長する博物館」

「協創」と「連携」の2つの視点で、3つの博物館活動を推進する



出発点

「文化と知的探求の拠点」

「三重の文化振興方針」より

- 三重の未来を拓く人づくりのための拠点として
→ 県民の自己実現と主体的活動の場を提供（人間力の視点）
- 三重を知り、三重を学び、三重を伝えるための拠点として
→ 地域づくりや地域課題の解決に貢献（地域力の視点）
- 三重の豊かな自然と歴史・文化の資産を保全・継承し、活用するための拠点として
→ 人や地域をつなぐ連携・ネットワークを構築（創造力の視点）

第1章 2009（平成21）年度の取組

2009（平成21）年度の取組については、「新県立博物館基本計画（平成20年12月）（以下「基本計画」という。）に基づき作成した「新県立博物館 事業実施方針」（平成21年3月）（以下「事業実施方針」という。）をもとに、展開してきました。

■ 事業実施方針の基本的な考え方（事業実施方針より）

1 事業の目標 「ともに考え、活動し、成長する博物館」づくり

2 取組方針

(1)開館前から協創・連携による活動を展開する

開館前から、県民・利用者との「協創」の視点と多様な主体との「連携」の視点に基づく活動を展開します。

(2)既存の活動を拡充・発展させる方向で展開する

現博物館が既に実施している活動を拡充・発展させ、新博物館の活動につなげます。

(3)重点的取組テーマを設定して活動を展開する

「ともに考え、活動し、成長する博物館」づくりのために、重点的取組テーマとして下記の4項目を設定し、開館に向けた活動の中で積極的に展開します。

(4)ソフトの成果を施設づくりに生かす

事業実施方針に基づく検討・取組を施設づくり（設計・施工）に生かします。

3 重点的取組テーマ

◇取組テーマ1 参画のしくみづくり

県民・利用者の皆さんが、一人ひとりの状況に応じて博物館の活動や運営に関わることができるよう、多様な参画の機会を設けます。

◇取組テーマ2 連携が進む環境づくり

県内外の博物館、大学等高等教育機関、学校など多様な主体との連携が進むために必要なしくみの整備を進めます。

◇取組テーマ3 評価のしくみづくり

博物館の活動や運営の成果を県民・利用者をはじめ、博物館に関わる人がみんなで振り返り、確認することにより、次に生かし、活動や運営をより充実したものに高めていけるようなしくみを検討し、設けます。

◇取組テーマ4 魅力的な博物館づくり

より多くの人に興味を持って、来館し、リピーターとなるような魅力的な博物館とするための取組を進めます。

2009(平成21)年度に実施した重点的取組テーマ別の実施状況と、その成果と課題について報告します。

■ テーマ別の取組

1 各取組の位置づけ

＜取組テーマ1＞参画のしくみづくり

○段階に応じた参加、参画のきっかけ、機会づくり
 →①博物館活動（調査研究、収集保存、活用発信）
 ②運営（博物館運営機関、評価に参画、ボランティアスタッフ、友の会等の支援組織）→主に取組テーマ4で実施

平成21年度の取組

- ・みんなで作る博物館会議2009 →(1)
- ・ティーンズプロジェクト（こども会議） →(2)
- ・「新博物館の活動と運営 Vol.1」のとりまとめ →(3)
- ・三重県立博物館サポートスタッフ活動 →(4)
- ・博物館さわるるプロジェクト（博物館を知るWSの開発） →(5)
- ・ミエソウの足跡化石調査 →(6)

＜取組テーマ2＞
連携が進む環境づくり

○対象別の方針
 →①各主体との対話
 ②連携事業の試行

- 平成21年度の取組
- ・県内博物館との連携事業 →(7)
 - ・三重大学との連携事業 →(8)
 - ・地域の団体との連携事業 →(9)
 - ・学校との連携事業 →(10)
 - ・「文化と知的探求の拠点」との連携事業 →(11)

＜取組テーマ4＞
魅力的な博物館づくり

○ソフト面の施設づくり・運営
 ○広報・発信

- 平成21年度の取組
- ・建築・展示設計の検討 →(13)
 - ・県民への説明と意見集約（アンケート調査等） →(14)
 - ・伝えて広めるプロジェクト →(15)
 - ・みんなで作る博物館会議2009 →(1)
 - ・ティーンズプロジェクト（こども会議） →(2)
 - ・「新博物館の活動と運営 Vol.1」のとりまとめ →(3)

＜取組テーマ3＞
評価のしくみづくり

○評価のしくみづくり
 →①運営面での評価
 ②展示等事業評価

- 平成21年度の取組
- ・移動展示（展示内容の構築） →(12)
 - ・みんなで作る博物館会議2009 →(1)
 - ・「新博物館の活動と運営 Vol.1」のとりまとめ →(3)

2 実施状況

(1) みんなでつくる博物館会議 2009

新博物館に向けた取組の進捗状況について報告し、県民の皆さんとオープンに意見交換をする場として、第1回となる「みんなでつくる博物館会議2009」を開催しました。

当日は、新県立博物館の概要説明をはじめ、現県立博物館の歴史をスライドで紹介するとともに、年間を通じ、県民の皆さんや関係機関と、実施してきた新博物館に向けたさまざまな活動について報告しました。会場では、新博物館の模型を置いたPRコーナーに加え、隣室で、三重県立博物館サポートスタッフによる体験コーナーを交えた活動紹介のパネル展示も行われました。

この会議の後半では、前半の報告をもとに、さまざまな意見が出されました。

時間的制約もあり、追加意見については、意見集約用紙に記入してもらい、後日ホームページ上で紹介しました。

この「みんなでつくる博物館会議」は、開館後、県民・利用者の皆さんによる博物館運営への参画のしくみの一つとなるものです。開館までの数年間においては、新博物館づくりへの県民の皆さんの参画の場であると同時に、試行錯誤を重ねながら、この会議のかたちについて見だしていく場として、今後も毎年開催していきます。

「みんなでつくる博物館会議 2009」開催概要

- ① 日時 平成22年1月30日(土) 13:30~16:00
- ② 場所 三重県総合文化センター セミナー室A
// セミナー室B (パネル展示)

③ 参加者数 約140人

④ 内容

- オープニング
- けんぱく(県博)ストーリー
- 見えてきたぞ新博物館
- 証言!新博物館への道
- ええもんつくろ!こうしよ、ああしよ(意見交換)



(2)ティーンズプロジェクト(こども会議)(文化庁支援事業)

開館後の子どもたちの参画の場をどのように設けていくのか、を課題としながら、本年度については、試行的に子どもたちの思いを新博物館に反映していくため、ティーンズプロジェクト(こども会議)を開催しました。

具体的には、文化庁支援事業のプログラムの一つとして、現場研修やワークショップなどを通じて、「博物館とは？」ということを共有しながら、子どもたちの新博物館への思いをかたちにしていくような場にしていきました。

県内各地から、小学校5年生～中学校2年生までの18名の子どもたちが集まりました。また、このプロジェクトのリーダー役として、嵯峨創平さん(NPO 法人環境文化のための対話研究所代表)、^{さがそうへい} 応援団として、^{ぬのたにともお} 布谷知夫さん(滋賀県立琵琶湖博物館名誉学芸員)、^{そめかわかすみ} 染川香澄さん(ハンズ・オン プランニング代表)、^{なかにししょういち} 中西紹一さん(有限会社プラス・サーキュレーション・ジャパン代表)が、参画いただきました。

- 8/8 第1回 オリエンテーション
(わたしたちにとって博物館って?)
- 8/22 第2回 滋賀県立琵琶湖博物館見学ツアー
(博物館ってどんなところ?表も裏も見てみよう!)
- 9/19 第3回 兵庫県立考古博物館見学ツアー
(博物館ってどんなところ?調べてみよう!)
- 10/3 第4回 ティーンズ・ワークショップⅠ
(行ってみたい博物館を考えよう!)
- 10/31 第5回 ティーンズ・ワークショップⅡ
(どんな博物館が欲しいか考えてみよう!その1)
- 11/7 第6回 ティーンズ・ワークショップⅢ
(どんな博物館が欲しいか考えてみよう!その2)
- 11/28 第7回 こども会議
(10代と大人が博物館をめぐる対話する「こども会議」)

※文化庁支援事業とは:「平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業」の略。「博物館きわめるプロジェクト」、「ティーンズプロジェクト」、「伝えて広めるプロジェクト」の3つのプロジェクトで構成する事業を三重県立博物館が申請し、採択されたもの。



ティーンズプロジェクトの様子

(3) 「新博物館の活動と運営 Vol.1」のとりまとめ

新博物館に向けた検討や取組の進捗状況について報告し、県民の皆さんと共有し、意見交換をするための道具（ツール）として、「新博物館の活動と運営 Vol.1」をとりまとめます。

平成 21 年度の取組について、実施結果だけでなく、検討した内容のうち、県民・利用者の皆さんと共有したいものについても、「第 2 章 2009(平成 21)年度の検討内容から」として掲載し、県民の皆さんとの意見交換の対象とすることで、検討結果を周知するだけでなく、必要に応じて、修正できるよう、中間報告を作成しました。

平成 21 年 12 月 中間報告

平成 22 年 1 月 中間報告 2

平成 22 年度においても、新博物館についての検討内容について、情報提供とできるよう中間報告をとりまとめることとします。

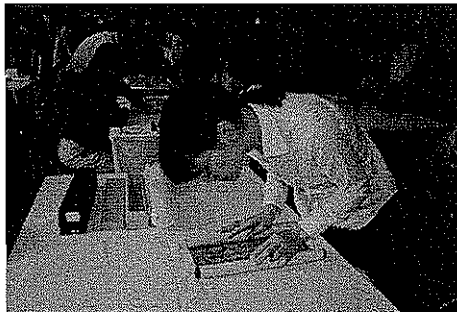
(4) 三重県立博物館サポートスタッフ活動

現県立博物館では、平成18年度からサポートスタッフの募集を始め、新県立博物館へ向けた先行的取組として活動を行なっています。

毎年数十名ずつ仲間が増えており、現在は小学生から80才代の方まで約170名の皆さんがサポートスタッフ活動に参加されています。活動では自ら学ぶ楽しさや知的な好奇心を育みながら、世代や興味関心を越えた交流や、資料を通じた地域の再発見などによって協創活動の場づくりを進めています。

主な活動内容としては、三重の自然や歴史・文化を扱う博物館の活動に関する「研修受講」、県内各地で開催する移動展示や博物館教室・フィールドワークなどの博物館事業への「スタッフ協力」、各自の興味関心に沿った分野別の「グループ活動」(サポスタ情報局・おもしろ博物館づくり・化石鉱物・生きもの・染色・民俗・歴史の7グループ)などです。これらを通し、皆さんと「ともに考え、活動し、成長する博物館」をめざしています。

1月30日に開催した「みんなで作る博物館会議2009」において、スライドやパネル展示による活動紹介を行いました。



博物館資料の取扱研修



スタッフ協力 (8/9M祭)



グループ活動(化石鉱物)



活動成果発表会

※M祭とは-(財)三重県文化振興事業団が、県内の文化団体や県立の文化施設等の関係機関に呼びかけて毎年開催している、体験を通じて楽しく学べる県内最大級の子ども向けイベントのことです。

(5) 博物館きわめるプロジェクト

(地域と連携した博物館を知るWSプログラムの開発) (文化庁支援事業)

「博物館ってどんなところ？」をメインテーマに、地域・県内博物館と連携して、「モノってなあに？」をテーマに、小学校高学年の子どもを対象とした3種類のワークショップ(WS)を開催し、その成果をもとに、博物館を知るWSプログラムの開発に役立てるために実施しました。

このプロジェクトの実施にあたっては、松阪市文化財センター(松阪市)、伊賀流忍者博物館(伊賀市)、芭蕉翁記念館(伊賀市)、桑名市博物館(桑名市)と共催し、連携して取り組みました。

また、WSの前日に、講師とスタッフ、県博サポートスタッフ、博物館及び関係機関職員などが参加して、「企画交流ラボ」と称し、講師による事前の体験研修を行いました。これにより、WSの内容や意図などがわかり、参加者どうしの交流の機会ともなりました。WSに参加した子どもは、のべ44人、企画交流ラボにはのべ54人の大人が参加しました。



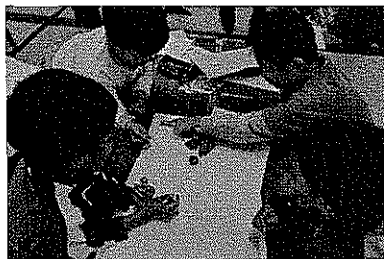
「本物に出会ったドキドキを誰かに伝えよう」

日時：平成21年9月26日(土)

(企画交流ラボ：9月25日(金))

場所：松阪市文化財センター(はにわ館)

講師：竹内伸子さん(絵手紙作家)



「いざ子ども 石の上にも3時間」

日時：平成21年11月1日(日)

(企画交流ラボ：10月30日(金))

場所：史跡旧崇廣堂(伊賀市)

講師：塩瀬隆之さん(京都大学総合博物館准教授)



「物の語りを聞く-お茶箱プロジェクト」

日時：平成21年11月21日(土)

(企画交流ラボ：11月20日(金))

場所：六華苑(桑名市)

講師：佐藤優香さん(国立歴史民俗博物館助教)

(6) ミエゾウの足跡化石調査

三重県立博物館では、ミエゾウをはじめとするゾウ化石の研究の基礎資料を得るため、平成21年4月30日から5月6日の期間に、鈴鹿川水系の支流である御幣川（おんべがわ）流域（鈴鹿市伊船町）において、ミエゾウなどの足跡化石の調査を行いました。その後、追加調査も実施しています。

調査の実施にあたっては、新博物館がめざす協創と連携による先駆的な取組として、県内外の学術団体や研究者（滋賀県足跡化石研究会、名古屋地学会ほか）、博物館サポートスタッフ、鈴鹿市、地元自治会など、多様な主体の協力を得て行いました。また、学校教育との連携の一環として、地元の小学生（鈴鹿市立深伊沢・庄内・椿小学校の6年生）にも化石発掘の体験をしてもらい、地域に対する興味関心を高めるきっかけとしました。

さらに、速報展「やっぱりゾウは歩いていた 御幣川ミエゾウ足跡化石調査より」を県民ホールにて、5月25日から6月12日まで開催しました。その後、地元鈴鹿市役所でも、移動展示「むかし、鈴鹿にゾウがいた～御幣川ゾウ足跡化石調査から～」を9月1日から10日まで行いました。

調査の成果は、調査報告会を3月6日に開催（於、鈴鹿市立図書館）するとともに、報告書としてまとめ、刊行します。

（調査を終えて）

現地調査を行った御幣川流域の地層は、ちょうどミエゾウからアケボノゾウへと進化していったと考えられる時代の地層です。このため、調査で得られた成果を詳しく検討するとともに、さらに広域的な調査を行うことは、まだ十分に解明されていない、ミエゾウからアケボノゾウへの進化過程を明らかにし、また、ゾウがいた頃の三重の古環境を考える上で大変意義があり、引き続き調査を進めていく予定です。

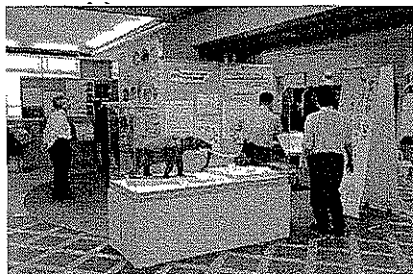
○ 御幣川ゾウ足跡化石調査（鈴鹿市伊船町）



（現地説明）



（地元小学生による化石発掘体験）



○速報展

「やっぱりゾウは歩いていた 御幣川ミエゾウ足跡化石調査より」

於：県庁

(7) 県内博物館との連携事業

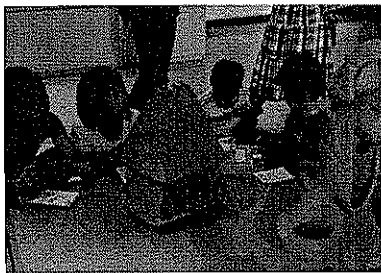
(三重県博物館協会 連携ワーキング)

県内博物館 50 館が参加する「三重県博物館協会」に、今後の連携に向けた検討のためのワーキングを設けました。

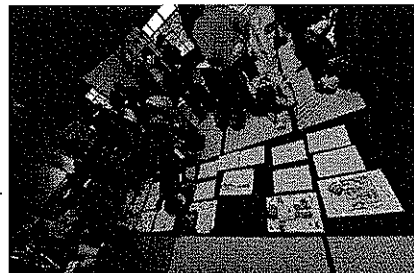
今後、これまで三重県博物館協会で行ってきたことや、平成 20 年度に実施したアンケート調査を参考にしながら、行事や展示などの共同開催、合同広報活動、資料情報などの共有化、合同研修会など、可能なものから具体的に検討を進めていきます。最終的に、連携が、利用者にとってメリットになり、県内博物館にとっても基盤強化につながるよう、持続的に、県内博物館とともに取組を進めていくことをめざしています。

(博物館きわめるプロジェクトでの連携)

「(5) 博物館きわめるプロジェクト(地域と連携した博物館を知るWSプログラムの開発)」においては、松阪市、伊賀市、桑名市の 3 か所で、松阪市文化財センター(はにわ館)、芭蕉翁記念館、伊賀流忍者博物館、桑名市博物館の 4 館と共催で実施しました。特に、今回のプロジェクトにおいては、前日に企画交流ラボとして、関係者による事前体験・研修を行いました。このことにより、連携館・新博物館とが人的なつながりをもてたほか、学芸員自身がワークショップを実際に体験してみることの重要性(参加者の視点に立てる)、小学校高学年の子どもとの接し方などがよくわかった、などの成果や意見が連携館から出されました。



9/26 松阪会場
連携館：松阪市文化財センター(はにわ館)
於：同館



11/21 桑名会場
連携館：桑名市博物館
於：六華苑



11/1 伊賀会場
連携館：芭蕉翁記念館、
伊賀流忍者博物館
於：史跡旧崇廣堂

(8) 三重大学との連携事業

平成21年3月に三重大学との協定を締結し、今後の連携のあり方などについて、三重大学とともに協議を行っています。

本年度は、三重大学との共催で、大学、地域、博物館、文化力をキーワードに3回のシンポジウムを開催しました。

これらのシンポジウムにおいて、博学連携(博物館と大学との連携)による文化力形成と地域の活性化、今後の大学と連携した取組の方向などの具体策を議論しました。

今後、三重大学との連携を他の県内大学にも広げ、さらに、県外の大学や学術団体、博物館等との交流、ネットワークづくりにもつなげていくこととしています。

10/29 第1回「文化力・地域の活性化と大学の役割」(135名参加)

11/15 第2回「博物館と大学の連携により進める人づくり」
(103名参加)

12/5 第3回「文化力と地域の活性化を拓く博学連携(博物館と大学との連携)」
(124名参加)

また、現県立博物館は、教育学部・工学部と連携した取組として「青少年のための科学の祭典」へ出展し、多くの子どもたちが、科学や自然に興味を持つきっかけづくりを継続して行っています。11月28日、29日に開催され、「昆虫切り絵体験」には、829人の参加者がありました。



第1回シンポジウム



第2回シンポジウム



第3回シンポジウム



「青少年のための科学の祭典」から

(9) 地域の団体との連携事業

地域の団体との連携事業に取り組む中で、資料の収集保全、調査研究等の博物館活動をともに進めるための人的なネットワークづくりを行うこととしています。

(自然系団体との協創)

平成21年3月には、県内の自然系の団体が集まり、その活動や地域の自然を紹介する「しぜん文化祭」の開催に協力するとともに、当室が主催して新博物館に関するシンポジウムを同時開催しました。本年度も引き続き、開催が予定されており、企画段階から協力・参画しています。

| | |
|--------|--|
| 平成20年度 | 開催場所：津市河芸町 開催期間：平成21年3月21日～22日 参加団体：36団体 |
| 平成21年度 | 開催場所：菰野町 開催期間：平成22年3月20日～21日 (予定) |

(人文系団体との協創)

人文系の団体などと連携した取組としては、熊野古文書同好会、三重大学、県立熊野古道センターが継続的に実施している地域資料についての調査に協力し、合同調査を行いました。

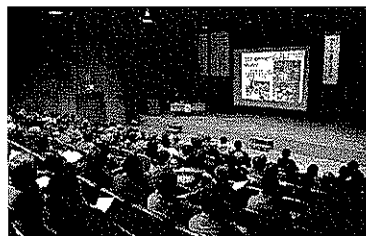
この成果を、平成22年1月30日から熊野市で開催した移動展示に活かすとともに、2月6日に、熊野市で調査報告会を共同で行いました。



しぜん文化祭 in みえ
(平成20年度)



連携による古文書調査の
ようす (熊野市内)



調査報告会「納札が語る熊野古道の旅」
(2月6日熊野市文化交流センター)

(10) 学校との連携事業

(「学校教育における博物館等の活用と連携に関する調査」)

県内の小・中・高等学校及び市町教育委員会に対して、「学校教育における博物館等の活用と連携に関する調査」を実施しました。

※ 調査結果の概要については、資料3に掲載

(「みえの「文化力」学校展開プロジェクト」)

三重県教育委員会が実施している庁内ワーキング「みえの『文化力』学校展開プロジェクト」に参画して、学校への文化力の浸透を図るため、博物館等の文化施設と学校の連携方策について検討をはじめました。

1月までに8回の会議が開催され、文化施設のもつ人やモノを生かした「本物体験」の実施について、学校現場の状況を前提にしながら、その課題や具体的方策について検討しました。この検討において、種々の機関が提供するプログラムの学校へ周知方法、モデル校による体験プログラムの開発や検証、文化機関と協働した教職員の研修などについて、その具体的方策が議論されました。これらの結果は、新県立博物館の学校連携のあり方にも反映させることとしています。

(学校での出前授業)

現県立博物館では、学校からの依頼に応じて、昆虫切り絵と昆虫観察、化石レプリカづくりなどを行っています。本年度は、幼稚園1件、小学校8件について、実施しました。

(小中学校教員の研修協力)

現県立博物館では、小中学校の教職員のグループに対して、御幣川ミエゾウ足跡化石現地学習会・化石採集実技研修会を行いました。

(1) 「文化と知的探求の拠点」との連携事業

「三重の文化振興方針」（平成20年3月）では、県内の「文化と知的探求の拠点」（県立・市町立・私立の文化施設）、と「身近な拠点」（市町の公民館、児童館等の施設など）が、各々の特徴を生かし、役割を果たしながら連携して、三重県全体として文化振興を図っていくことを重点施策としています。

現県立博物館においても、この考え方のもとで行うさまざまな取組に参画し、多様な機能をもった生涯学習センターや文化会館、図書館、他の博物館、公民館などと連携することで、より充実した博物館活動の創出につなげてきました。

（県総合文化センターとの連携）

三重県総合文化センターが毎年実施する子ども対象のM祭が、本年度も8月9日に開催され、県立博物館の生きもの切り絵コーナーには、1,114人の参加がありました。

（公民館や児童館などとの連携）

子どもから大人までの幅広い年齢層を対象とする生涯学習機関に対して、昆虫講座・観察会や昆虫切り紙教室や化石レプリカづくりなどの協力を行っています。本年度は、みえこどもの城、公民館3か所、児童館等4か所に出向いて実施しました。

（次世代の文化体験活動推進事業）

県生涯学習センターが窓口となり、県の「文化と知的探求の拠点」が連携して、未来の文化を担う子どもたちに、ホンモノの文化・芸術と「出会う」機会を提供するこの事業へは、現県立博物館所蔵の資料や技術などを活用して学校での授業や観察会などを行うため、職員を派遣しました。

1.2) 移動展示(展示内容の構築)

現県立博物館が平成18年度から県内各地で開催してきた移動展示では、所蔵資料を広く県民に公開するとともに、本年度からは、特に、新博物館がめざす県民との協創、あるいは、新博物館での展示につなげるための、実践的な試行を行ってきました。

また、各移動展示会場に新博物館のPRコーナーを設置して、新博物館について知ってもらおう場とし、来場者に対してアンケートを行いました。

こうした試行による成果を今後の展示内容の構築につなげていきます。

(伊賀会場)

- 期間 平成21年7月11日～8月9日
- 場所 上野歴史民俗資料館
- テーマ 「伊賀のとおきのおきの自然～秘蔵の国の魅力～」
- 入場者数 736名

- ※ 関連行事 サギソウ観察会と昆虫切り絵教室(8月7日三重県上野森林公園)
- ※ 新博物館の盆地(伊賀)のくらしを指向する試行的な展示内容をめざしました。

(鈴鹿会場)

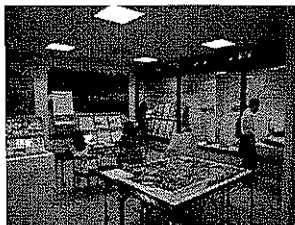
- 期間 平成21年8月27日～9月13日
- 場所 鈴鹿市立図書館
- テーマ 「鈴鹿の自然、再発見! 山・里・海の生きものたんけん隊」
- 入場者数 1,479名

- ※ 関連行事 展示解説会(8月29日、30日とも9時半・11時 計2回)
- ※ 地元の鈴鹿市自然環境調査委員などに、展示標本について協力をいただきました。

(熊野会場)

- 期間 平成22年1月30日～2月14日
- 場所 熊野市文化交流センター
- テーマ 「巡礼の道～伊勢参宮と熊野詣～」
- 入場者数 1,412名

- ※ 関連行事 調査報告会「納札が語る熊野古道の旅」(2月6日熊野市文化交流センター)
- ※ 熊野古文書同好会などと共同調査した成果も、移動展示で公表しました。



伊賀会場



鈴鹿会場



熊野会場

(13) 建築・展示設計の検討

基本計画で検討してきた博物館活動や運営が展開できるよう、建築や展示の設計の検討を行いました。検討にあたっては、県民の皆さんへのアンケートやさまざまな意見交換の中で出された意見を参考にしました。

(建築設計の検討)

建築設計については、毎週金曜日に定例会を開催するなど、学識経験者を加え、設計者と学芸員・建築技師等県職員による検討を行いました。

※定例検討会議（平成22年2月末までに、約60回）、ほかにテーマ別検討会などを開催

(展示設計の検討)

展示設計については、毎週木曜日に定例会を開催するなど、学識経験者を加え、設計者と学芸員・建築技師等県職員による検討を行いました。

※定例検討会議（平成22年2月末までに、約50回）、ほかにテーマ別検討会などを開催



以上の検討を通じて、基本計画をもとにした、博物館活動や運営についての具体的なありようを議論しながら、それをもとにした施設の建築設計や展示設計を進めました。（検討内容は、26～29ページ参照）

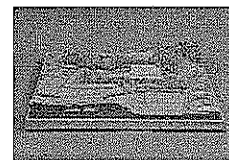
(県民の皆さんと一緒に、ユニバーサルデザインの視点から行った検討)

① 障がい者団体やUD関係団体への説明と意見交換を継続的に行っています。（平成21年度2月末までに、計4回）（詳しくは、22ページ参照）

② 平成22年1月26日～27日に伊勢市で開催された「子育て応援！わくわく支援フェスタ」や2月27日～28日に津市で開催された「子どもの権利フォーラム マタニティフェスティバル」の会場で、授乳室の模型を使って、授乳室の設計についてのアンケートを行いました。

(模型によるPR)

平成21年7月から現在まで、津市内の各地（県庁、県総合文化センター、アスト津）や県内各地で開催した移動展示（伊賀市、鈴鹿市、熊野市）などで、500分の1模型によるPRを行いました。また、それとは別に、さわれる模型を作成し、三重県視覚障害者支援センターに平成22年1月から置き、視覚障がい者の皆さんに、知っていただく機会としています。



500分の1
建築模型

(14) 県民等への説明と意見集約（アンケート調査等）

2月末までで、のべ105回（のべ約17,900人）のさまざまなイベントや会議などの機会を活用して、新博物館についての説明と意見交換を行いました。説明等の時間がとれない場合は、パンフレット等を配布し、アンケートにより意見等を集約しました。1月以降は、県内の文化施設や駅、ショッピングセンターなどでのPRキャラバンも実施しました。

（アンケートについて）

イベントや会議などでは、さまざまな目的で集まった人一人ひとりに意見をお聞きすることができないため、可能な限りアンケートの記入をお願いしました。

この結果、のべ4,074人から回答を得ることができました。このアンケートは、県民の皆さんの意見をできるだけ多く聞くために実施しました。このため、自由記述の部分も重視しました。また、集計にあたっては、会場ごとに来場者の特徴が見られたことから、会場別に集計・結果分析を行いました。

結果的に、会場別に集計すると、全体集計では、傾向がよくわからなかった各々の実施地域の特徴や、共通部分を見いだせることがわかりました。

このアンケートの成果については、次のとおり考えています。

① 県民一人ひとりの意見を聞く

自由記述の一つひとつを、一人ひとりのアイデアや思いのあらわれとして尊重し、検討に役立てることができました。

② 会場ごとの集計による多面的な分析を行う

集計結果についても、会場ごとの特徴をみたり、共通性を分析したりすることで、今後の検討に役立てることができました。

（e-モニター及び県内小学生へのアンケート）

以上のほか、2月に、e-モニターへのアンケート（対象1,502人中、994人回答）及び県内小学生へのアンケート（665人回答）を実施しました。

（報告書の作成）

平成21年度に実施したアンケートの結果を「県民アンケート実施報告書」にとりまとめました。

(15) 伝えて広めるプロジェクト

(文化庁支援事業)

文化庁支援事業として実施する博物館の基盤整備のための取組です。

(5)の博物館きわめるプロジェクト及び(2)のティーンズプロジェクトの成果をもとに、博物館のおもしろさをより多くの人に広げていくために、関係者で企画内容を検討しながら、普及用のパンフレットの作成と活用、県内一円でケーブルテレビの記録番組放映を行いました。

(プロジェクトの主な内容)

① 普及開発会議の開催(年間4回)

開催した2つのプロジェクト(博物館きわめるプロジェクト・ティーンズプロジェクト)について、どのようにその成果を、多くの人に伝えて、博物館についての関心をもち、魅力を感じてもらえるかについて検討するための会議を開催しました。

会議では、デザイナー、ケーブルテレビ関係者、博物館きわめるプロジェクト連携館、県関係者が一緒に、企画内容を検討しました。

第1回:平成21年7月29日・第2回:平成21年12月15日

第3回:平成22年1月13日・第4回:平成22年2月23日

② 成果

○博物館きわめるプロジェクトの普及用パンフレット

子どもにも親しまれるような内容としながら、プロジェクトで実施したワークショップの意図や内容が伝わり、読んだ人が自分もワークショップに参加してみたくなり、博物館に魅力も感じてもらえるような冊子を作成しました。

○ティーンズプロジェクト特別番組の作成と放映

ティーンズプロジェクトの子どもたちの活動をとおして、子どもたちが参加してみたくなる博物館像が伝わり、大人も含めて、新博物館への期待が高まるものとなりました。

放映期間:平成22年3月1日から31日まで(のべ199回放映)

放映会社:県内ケーブルテレビ9社

中部ケーブルネットワーク、ラッキータウンテレビ、

シー・ティー・ワイ、ケーブルネット鈴鹿、ZTV、

伊賀上野ケーブルテレビ、アドバンスコープ、

松阪ケーブルテレビ・ステーション、アイティービー

番組名:ケーブルテレビネットワークみえ1時間番組(うち30分間)

制作会社:ケーブルコモンネット三重、アイティービー

(プロジェクトの特徴)

今回のプロジェクトでは、デザイナーやケーブルテレビ関係者と一緒に会議を行い、企画内容や主催者の意図や思いを共有することで、成果物の配布先や使い方まで意識した広報物をつくることをめざしました。さらには、印刷物や映像を通じた伝えることのプロの考え方やノウハウを学ぶことを意図して、プロジェクトを実施しました。

3 詳細報告～県民の皆さんへの説明と意見集約の取組～

2の実施状況のうち、「(14)県民等への説明と意見集約（アンケート調査等）」については、みんなでつくる博物館の基本となる取組であることから、その実施状況等について詳細に報告します。

(1)実施状況

① 多様な機会を通じた説明、意見交換、アンケートの実施

平成21年6月から平成22年2月末までで、のべ105回（のべ約17,900人）のさまざまなイベントや会議などの機会を活用して、新博物館についての説明と意見交換を行いました。説明等の時間がとれない場合は、パンフレット等を配布し、アンケートにより意見等を集約しました。

(主な実施場所)

- ・移動展示（伊賀、鈴鹿、熊野）会場
- ・学校出前授業、フィールドワーク、ワークショップ、三重県博物館協会総会、サポートスタッフ交流会など（博物館行事）
- ・M祭、市町主催のシンポジウムなど（イベント会場）
- ・全国高校総合文化祭、世界新体操選手権大会、子育て応援わくわくフェスタなど（県関係行事）
- ・市町等教育長会議、県PTA連合会会長等研修会など（県関係機関等の会議）

以上のほかにPRキャラバン（公共施設、駅、ショッピングセンター）を実施

アンケートの実施状況

※詳細については、「県民アンケート実施報告書(平成22年3月8日)」参照

1) 県立博物館主催、参加イベントでのアンケート

| | 伊賀移動展示 | 鈴鹿移動展示 | M祭 | 熊野移動展示 |
|-----|--------|--------|-----|--------|
| 回収数 | 263 | 672 | 290 | 136 |

2) その他イベントでのアンケート

| | 子育て応援！わくわくフェスタ | 子どもの権利 マタニティ/フェスティバル | 合計 |
|-----|----------------|----------------------|-----|
| 回収数 | 215 | 195 | 410 |

3)PRキャラバン（公共施設、駅、ショッピングセンターなど）でのアンケート

平成22年1月22日から2月26日までの、のべ25日間に、全部で32カ所の文化施設や駅、ショッピングセンターなどで、のべ約6,700名に広報活動を行い、同時にアンケート調査を実施しましたところ、1,953名から回答を得ることができました。

(実施状況)

| 調査機会 | 調査場所 | 調査期間 | 回収数 |
|---------------|------|------------|-------|
| 県立図書館 | 津市 | 平成22年1月22日 | 110 |
| 男女共同参画センター | 津市 | 平成22年1月22日 | 50 |
| 文化会館 | 津市 | 平成22年1月22日 | 9 |
| 生涯学習センター | 津市 | 平成22年1月22日 | 11 |
| 津市図書館 | 津市 | 平成22年1月29日 | 150 |
| フレンデみえ | 津市 | 平成22年1月30日 | 82 |
| 熊野市文化交流センター | 熊野市 | 平成22年1月31日 | 58 |
| 四日市博物館 | 四日市市 | 平成22年2月2日 | 44 |
| 四日市市立図書館 | 四日市市 | 平成22年2月2日 | 121 |
| 伊賀忍者博物館 | 伊賀市 | 平成22年2月3日 | 30 |
| 伊賀上野城 | 伊賀市 | 平成22年2月3日 | 18 |
| 亀山歴史博物館 | 亀山市 | 平成22年2月4日 | 12 |
| 二見シーパラダイス | 伊勢市 | 平成22年2月6日 | 81 |
| 磯部図書館・郷土資料館 | 志摩市 | 平成22年2月7日 | 22 |
| 鳥羽水族館 | 鳥羽市 | 平成22年2月7日 | 125 |
| 桑名市中央図書館 | 桑名市 | 平成22年2月9日 | 134 |
| 本居宣長記念館 | 松阪市 | 平成22年2月10日 | 24 |
| 松阪市図書館 | 松阪市 | 平成22年2月10日 | 72 |
| みえこどもの城 | 松阪市 | 平成22年2月11日 | 98 |
| 熊野古道センター | 尾鷲市 | 平成22年2月13日 | 66 |
| 紀南ツアーデザインセンター | 熊野市 | 平成22年2月14日 | 12 |
| 桑名駅 | 桑名市 | 平成22年2月15日 | 5 |
| サンシハンター | 鈴鹿市 | 平成22年2月16日 | 23 |
| サティ津 | 津市 | 平成22年2月17日 | 21 |
| スーパーサンシ日永カヨー | 四日市市 | 平成22年2月18日 | 25 |
| 牛虎ハイジ | 伊勢市 | 平成22年2月19日 | 16 |
| 牛虎渋見 | 津市 | 平成22年2月20日 | 102 |
| イオン名張 | 名張市 | 平成22年2月22日 | 48 |
| 牛虎久居 | 津市 | 平成22年2月23日 | 72 |
| サンシ大矢知 | 四日市市 | 平成22年2月24日 | 106 |
| 牛虎大黒田 | 松阪市 | 平成22年2月25日 | 121 |
| サンシ玉垣 | 鈴鹿市 | 平成22年2月26日 | 85 |
| 合計 | | | 1,953 |

② 全県民を対象とした広聴広報、アンケートの実施

アンケートの実施状況

※ 詳細については、「県民アンケート実施報告書(平成 22 年 3 月 8 日)」参照

1) 県政一口提案

県政だより 9 月号(概略設計のご案内)、10 月号(県政一口提案)で、県内約 71 万世帯に対して、概略設計のご案内とそれに対する意見等の募集を行いました。

- ・実施期間：平成 21 年 10 月号の配布日から 11 月 10 日まで
- ・提出意見数：103 件 (実施期間後の提出数 3 件)

| 賛成 | 反対 | その他 | 計 |
|-------|-------|-------|--------|
| 77 件 | 14 件 | 12 件 | 103 件 |
| 74.8% | 13.6% | 11.6% | 100.0% |

2) e-モニターへのアンケート調査

県の e-モニターのシステムを活用して、対象者 1,502 名にアンケート調査を行いました。

※ e-モニターとは：三重県が、各種の行政課題について、あらかじめ登録した県民の方を対象に行う、電子アンケートシステムです。アンケートの対象者は、三重県が、選挙人名簿から、候補者を、性別、年齢層など属性別に均等、かつ無作為に抽出し募集を行い、これにご応募いただいた県民の方々です。現在、1,502 名が登録されています。

- ・実施期間：平成 22 年 2 月 4 日～2 月 22 日
- ・対象者数：1,502 名
- ・回答数：994 件(回答率：66%)

(設問 5 (新県立博物館整備への意見・提案) の集計結果)

994 件の回答のうち、設問 5 (新県立博物館整備への意見・提案) の自由記述欄に記入のあった 680 件について、集計した結果は、以下のとおりです。

| 賛成 | 反対 | その他 | 計 |
|-------|-------|-------|--------|
| 519 件 | 85 件 | 76 件 | 680 件 |
| 76.3% | 12.5% | 11.2% | 100.0% |

3)小学生へのアンケート調査

県内の小学校11校に依頼し、主に5,6年生を対象に小学生への認知度、新博物館への意見や思いを集約するためのアンケートを実施しました。

- ・回答期日：平成22年2月23日
- ・回答数：665人

③（予定地周辺）住民説明会の実施

津市内の新博物館建設予定地周辺の4連合自治会（津西地区、北立誠地区、南立誠地区、一身田地区）（地域内居住：約15,000世帯、約38,000人）については説明会を開催するとともに、概略設計（概要版）パンフレットの各戸回覧を実施しました。

| | 第1回(4/11) | 第2回(9/12) |
|------|-----------|-----------|
| 参加人数 | 46人 | 43人 |

④ユニバーサルデザイン（UD）の博物館づくりのための意見交換

「三重県障害者社会参加推進協議会」及び「ユニバーサルデザインアドバイザー団体」との意見交換を実施しました。

1) 三重県障害者社会参加推進協議会との意見交換会

「三重県障害者社会参加推進協議会」との意見交換については、7月28日に、当事者団体など20構成団体中16団体の参加を得て、さまざまな障がい者の視点からの意見を聞くことができました。また、9月には、第2回を開催して、第1回に出された意見への対応を報告し、意見交換を行いました。

これらの意見交換により、施設づくりや活動・運営へ多様な示唆を得ることができ、設計に反映するとともに、今後も意見交換の機会を設けることとしています。

2) ユニバーサルデザインアドバイザー団体との意見交換会

UDの視点から地域において活動をされている団体の皆さんに、多様なご意見、提案をいただき、意見交換を行いました。

| 会議名 | 第1回(参加団体) | 第2回(参加団体) | 第3回(参加団体) |
|--------------------|------------|-------------|-----------|
| 三重県障害者社会参加推進協議会 | 7/28(16団体) | 9/10(14団体) | 3/16(●団体) |
| ユニバーサルデザインアドバイザー団体 | 8/19(10団体) | 12/11(10団体) | 3/25(●団体) |

⑤ 関係機関等の会議

- ・四日市地域における知事と市町長による「トップ会議（膝づめミーティング）」（8月26日）において、市町側からの提案により、「県と市町の博物館の連携について」をテーマに、議論しました。議論においては、新県立博物館と市町の博物館や資料館との連携について積極的に意見交換がなされました。
- ・津市デザイン委員会（7月23日）において説明
- ・三重県景観審議会（9月15日）において説明

⑥ ティーンズプロジェクト「こども会議」からの提案

小学校5年生から中学校2年生までの、県内各地から集まった18名からの提案や意見をもらいました。

○ あったらしいなこんな博物館

「友達ができる、わくわくどきどきする博物館」をテーマに、夢いっぱい理想の博物館像を提案しました。

・提案1 マンモス狩りができる博物館

みんなで、マンモス狩りを体験できるバーチャル展示博物館

・提案2 展示を食べちゃう博物館

展示物を食べることもできる博物館

・提案3 展示を買える博物館

クイズに挑戦して正解すると展示物を買える博物館

・提案4 迷った～見つけた、の場面で友達ができる博物館

クイズラリーと一緒に参加した見知らぬ人どうしが、博物館で資料を見学しながら、答えを探すうちに、最終的に仲良くなり、友達になるような場面が展開される博物館

→キーワードは、「探検」、「異年齢」、「交流→友達」、「体験」、「クイズ」、「食」。キーワードをヒントに、子どもたちの思いは夢のあるものが多く、実際の博物館で実現することが難しいものもありますが、少しでも、新博物館に取り入れていくことができるように検討を進めていきます。

○ 子どもたちの意見（新しい博物館をわくわく・どきどきにするために、必要なこと）

- ・なるべく平面の物を展示するのではなく3Dの立体で動く、動かせる、さわれるコーナーをたくさん作る。
- ・体験コーナーを多くする。
- ・館内にスタンプラリーやクイズラリーがあり、楽しく博物館が見学できるようにする。
- ・博物館の人が昔のかっこうをして案内する。
- ・博物館にしかけを作ったり、本物そっくりの象をおくなど相手をびっくりさせるコーナーが必要。
- ・『サプライズ』『ハプニング』を大切にし、誰の視点からも楽しめる工夫が必要。

○ 参加した子どもの発言、意見（アンケート結果から）

Q:どのように楽しかったですか？参加して思ったことなどを教えてください。

- ・博物館での見学は見たことがない物を見れたり、体験できたのが楽しかった。博物館をわくわくどきどきにするショーケース（短いお芝居）では、自分が思い描いた博物館を話にするのが楽しかった。
- ・仲よくなった友だちといっしょに、体験コーナーやショーケースができたことが楽しかった。
- ・博物館とは、勉強するだけだと思っていたけど、行ってみて、とても楽しい所なんだなと思った。新しい博物館で、たくさんの子とも、仲よくなれたりする博物館がいいなと思った。とても楽しみだ。
- ・学芸員の皆さんは本気で三重の博物館を変えようとしていた。私はそれを観ていっしょに変えようと感じた。
- ・学芸員になりたい。
- ・博物館がここまでがんばって楽しめる工夫をしている事を知らなかったのが驚いた。これからも機会があったら参加したい。

⑦ みんなでつくる博物館会議2009

平成22年1月30日に開催した「みんなでつくる博物館会議2009」のなかで出された意見や参加者へのアンケートの中で、今後の進め方に関するものを以下にまとめました。

○会議の進め方について

Q:この会議の進め方について、感想やご意見をお聞かせください。

- ・意見を聞く時間をもっと長く取ったほうがいいのでは。
- ・概要を知るとい意味ではよかったと思う。
- ・盛りだくさんで面白かったが、午前・午後または2日に分けても良かったのでは。
- ・コンテンツのみではなく、営業面の報告もあればよかった。
- ・Q&Aが活発でよかった。
- ・新博物館の紹介をもう少しわしくしてほしい。
- ・あまりテーマが多数すぎて思いが困惑します。テーマを絞り込んだ方がベター。
- ・プログラムにそった進め方、スライドで映像がわかりやすい。
- ・会場を広くして、机を用意したほうがよい。
- ・本当に魅力を伝えたいのだろうかと思いました。内輪で理解して満足しているだけでは、県民の皆さんに発信できません。

○「みんなでつくる博物館会議2009」の今後の進め方について

Q:県民の皆さんの参画のしくみのひとつとして実施する「みんなでつくる博物館会議」の今後のあり方などについて、ご意見・ご提案を自由にお書きください。

- ・県民の中にも素晴らしい方がたくさんおられます。多いに活用されて

もらいたいです。

- ・いろいろな部署が連携できる体制を作るべきでしょう。
- ・学校連携、ワークショップ、展示、調査などテーマやセッションごとに集まるのはどうでしょうか。
- ・全体会とは別に、テーマ別の分科会的なものがあるのもいいと思う。
- ・開催日を二ヶ月以上前に知らせて欲しい。
- ・質疑時間を長く。
- ・会場を県内各地に展開してはどうか。
- ・県民への継続的なアピール、理解、協力の方法（アイデア）の開拓もよろしくお願いします。
- ・企業も多くの資料を持っています。参加の手法もあると思います。博物館が働きかけると色々と企画も出てくると思います。
- ・内容が堅い！もっとカジュアルに一般の人にも「面白そう」と感じるものにすべき。

(2) 意見への対応

個々の意見は、多様なので、できるだけ、同じ趣旨の意見について、下記のとおり主要な意見項目別に整理し、検討に取り入れていくようにしました。

なお、いただいた意見のうち、まず、建築設計など、既に反映した主なものについては、資料3にまとめました。

(主な意見項目)

| | 項 目 |
|-------|--|
| 建築 | ①施設のデザイン、構成、間取り等に関する事 |
| 展示 | ②展示内容に関する事 ③展示方法に関する事 ④展示運営に関する事 |
| 博物館活動 | ⑤博物館活動全般に関する事 ⑥調査研究活動に関する事 ⑦収集保存活動に関する事 ⑧資料閲覧等に関する事 ⑨催し、プログラムに関する事 |
| 公文書機能 | ⑩公文書館機能の整備に関する事 |
| 連携 | ⑪連携に関する事 |
| 運営広報 | ⑫運営全般に関する事 ⑬運営への参画に関する事 ⑭広報・宣伝に関する事 |
| その他 | ⑮その他博物館が提供するサービスに関する事 ⑯交通アクセス・動線等に関する事 ⑰ユニバーサルデザインに関する事 |
| 遠隔地 | ⑱遠隔地の県民へのサービス、アウトリーチに関する事 |